

看護のアジェンダ

井部俊子
株式会社井部看護管理研究所
聖路加国際大学名誉教授

看護・医療界の“いま”を見つめ直し、読み解き、未来に向けたアジェンダ(検討課題)を提示します。

〈第243回〉

申し送りの価値

このところ、勤務交代時に行う「申し送り」に関心を持っている。電子カルテが一般的となり、「カーデックス」なるものが姿を消した現場の申し送りには、単なる情報伝達のみならず、もっと深い意味があるのではないかと考えるからである。

そこで、まず「申し送り」について言及されている“文献”をひもとくことにした。

申し送りの風景

宮川香子さんが「申し送りの光景」¹⁾と題してつづった、開放病棟で夜勤をされていたときの思い出話である。「朝の申し送りを始めます」と夜勤者から号令がかかると、詰所の小窓やドアが閉められる。これは個人情報漏れに気をつけるという配慮なのだが、どんな話をしているのか気になる患者がウロウロする姿が「見受けられた」というのである。「聞き耳をたてて、両耳を交互に窓に近づけていたり、しゃがんで小窓をゆっくり少し開けて内容を聞こうとする患者」もいた。それを見つけた看護師が小窓を閉めると、患者はそっと窓を開ける。看護師はそれを見つけて窓を締める“イタチごっこ”が展開されたという。

申し送りのあとに、数人の患者がニコニコしながら看護師に近づいてきて、申し送りのときに髪をずっと触っている看護師、あくびをしている看護師、眉毛がない看護師がいたことを知らせ、こう付け加える。「あのな、看護師は患者をみてると思ってるやろ。オレら患者もよく看護師を観察してるんやで。動物園のオリのなかをみてるのと一緒で、朝の集まりはみてるおもしろいわ」。宮川さんは、個人情報に配慮した看護師の行為がどこまで患者に理解してもらえているのだろうか、聞こえなかったから(窓を)開けて話をしてほしいという患者にどう対応すべきであったのかと“今さらながら”振り返る。「よかれと思って行っていた配慮に説明不足があり、相手がどんな気持ちになるかの想像力も不足していた」と反省している。

私にも病棟師長(当時、ヘッドナースと称していた)として申し送りを取りしきっていた時期がある。ある朝、5階外科病棟のエレベーターを降りてナースステーションに近づくと、何やらつぶやきが聞こえてくる。カーデックスを開いて準備している夜勤者に、何をしているのかと問うと、申し送りの練習をしているとのこと。ヘッド

ナースにつつまれないための予行演習だというのである。スタッフが患者情報の把握と伝達に心血を注いでいたことを昨日のこのように思い出す。

「職業的に制度化された会話」としての申し送り

看護師がナースステーションに集まって行われる申し送りに費す時間が長いことが問題となり、「ベッドサイド申し送り」に移行しようという動きが起こった。

ベッドサイド申し送り (bedside handoff) の方向性を探る報告²⁾によると、利点は、①患者満足度の向上、②看護師満足度の向上、③医療安全の強化、④効率的な申し送りシステムの構築であった。課題は、①患者への配慮の改善、②患者参加の促進、③スタッフへの教育改善、④申し送り内容の改善であった。

一方、経済連携協定(EPA)によって受け入れるインドネシア、フィリピン、ベトナム人看護師候補生に向けた専門日本語教育の内容や教材整備の必要性が増しており、その基盤となる医療現場の会話に着目した研究がある³⁾。その研究によると、勤務交代時に行う「申し送り」は、「看護師が勤務交代時に集まり、入院患者についての情報を制限時間内に報告するものであり、正確で迅速な情報伝達が求められる会話」とされる。

申し送りは、「職業的に制度化された」会話として位置づけられる。しかし、実際の申し送りは、「対話的部分」が少なからず観察され、「独話的部分」から「対話的部分」へ、あるいは「対話的部分」から「独話的部分」への移行が極めて円滑に進められている。こうした「談話交替」の様相を探ることで、情報伝達上の働きを明らかにしようとする試みは興味深い。以下の申し送り例(文献3より)を見てみよう。

発話番号	発話者	発話内容
126	A	バイタルのほうですけどね、血圧120台
127	A	熱発(ねっばつ)なくて6度7分
128	A	パルスは95から97%でとってます
129	A	あとね、昨日の8時の時点でね、おしっこみたら、尿漏れしとって(笑い)よう見たらね、バルーン、クランプしたままやったんや
130	A	誰?
131	F	

金原一郎記念医学医療振興財団助成金

◆第9回生体の科学賞は熊本大の中尾光善氏に

第9回生体の科学賞授賞式が3月6日、医学書院(東京都文京区)にて行われた。本賞は金原一郎記念医学医療振興財団(代表理事=上武大・澁谷正史氏)の基金をもとに、2016年度に創設。基礎医学医療研究領域における独自性と発展性のあるテーマに対して、研究費用全般への支援を目的に、1件500万円の助成を行うものである。

今回は、中尾光善氏(熊本大発生医学研究所)による「エピゲノム機構による細胞制御と病態の分子基盤」が受賞した。

あいさつに立った氏ははじめに、「健康とは何か」について考察。同じ遺伝素因を持つ人でも環境要因や生活習慣によって健康から病気まで幅広くバリエーションを生じるのは、エピゲノムで形成される体質に起因すると考えられるとした。受賞の契機となった研究では今後、環境因子が細胞・個体に作用してエピゲノムの特性を転換し、健康や疾患感受性につながる基本メカニズム、およびその評価・制御技術の創出をめざしていく。「エピジェネティクスは『生体の科学』そのものであり、今回の受賞をひととき感慨深く思っている。本研究が進展することで、将来の医学・医療の進歩につながることを期待している」と語り締めくくった。

澁谷氏は代表理事の立場から、「研究者を取り巻く状況は厳しさを増すばかりだが、今回の受賞を糧として、中尾先生が大いに活躍されることを祈る」と激励の言葉を述べた。

◆第77回認定証(研究交流助成金・留学生受入助成金)贈呈式

金原一郎記念医学医療振興財団は3月6日、医学書院にて第77回認定証贈呈式を開催した。同財団は基礎医学の振興を目的に、助成金を年に2回交付している。下期である今回は、海外で行われる基礎医学医療に関する学会等への出席を助成する研究交流助成金と、基礎医学医療研究を目的に日本へ留学する大学院生等を助成する留学生受入助成金が交付された。今回の助成対象者は16人で、贈呈式には研究交流助成金対象者代表の石坂彩氏(東大医科研)、野口玲氏(国立がん研究センター)の2人が出席した。

開会に際し、金原優同財団業務執行理事(医学書院)が、医学書院の創業者・金原一郎の遺志を継いで設立された同財団の概要を紹介。「今回の助成金を研究の増進・進展に役立て、今後さらに活躍してほしい」と呼びかけた。

研究交流助成金交付対象者を代表して、HIV感染症の進行における腸内細菌叢の役割について研究する石坂氏があいさつに立った。氏は本年3月にアメリカ・サンフランシスコにて開催されるThe 32nd Conference on Retroviruses and Opportunistic Infectionsへの参加を予定しており、「基礎研究と臨床研究の最新データが議論される活気ある学会で新しい情報を得ることを今後の研究の糧としたい」と意気込みを語った。

続いて、留学生受入助成金対象者を代表してKhurelbaatar Anir氏がビデオメッセージにてあいさつした。氏はモンゴル国立医科大学を卒業後、動物実験による脳のストレス応答系の基本的なメカニズムを研究するために2020年来日。自治医科大学の神経脳生理学部門で博士号を取得し、この4月から同大学の博士研究員として研究を継続する。今回の助成金の交付に感謝の言葉を述べた後に、「日本で培った知識とスキルを生かし、母国の科学発展に貢献したい」と今後に向けた決意を表明した。

*同財団助成金の詳細については、同財団ウェブサイト(<https://www.kanehara-zaidan.or.jp/>)掲載の助成事業募集要項を参照されたい。



●写真 中尾光善氏



●写真 贈呈式には、16人の交付対象者のうち2人が出席した。

132	A	CCさん
133	A	多分、リハビリカー、なんか、かな
134	A	行って、バルーンそのままチップしたまま(笑い) // やって、本人も、ちょ、ちょっと何か痛かったみたいで
135	F	/ (笑い)

126-129: 独話的部分, 130-135: 対話的部分。

つまり、報告者が談話交替管理を含めて主導権を握ることで、申し送りを目的に沿った会話にしているのである。さらに、口頭による申し送りが多くの病院で続けられていることから、「対話的部分」の持つ情報伝達上の意義を明らかにしたいと考察している。

本稿ではここまで、勤務交代時に看護師が複数集まって行われる“儀式”を患者たちは興味深く観察していること、申し送りに費す時間を削減しようとしてベッドサイド申し送りに移行しようとしたこと、さらに申し送り時の会話が専門日本語教育の研究対象にな

っていることを報告した。

こうした現象の中核にある論点は、「情報をどのように“伝達”するか」である。しかし申し送りには、冒頭で述べたとおり情報伝達のみならず、もっと深い意味があるのではないかと。以下、私の仮説である。仕事はじめにチームメンバーがそろってお互いの心身の状況を確認し、勤務帯で共働するチームビルディングを行うこと、患者の診かたや思考発話を他者から学ぶこと、対話的会話によって世相を知ることなど、すべてOn the job training (OJT)の機会となることである。となると、もう少し申し送りを追求する価値がありそうである。

●参考文献・URL

- 1) 宮川香子. 申し送りの光景. 精神科看護. 2024; 51 (13): 25.
- 2) 屋敷有沙, 他. 病棟看護師の勤務交代時におけるベッドサイド申し送りに関する文献研究. 日保健医療行動会誌. 2017; 32: 42.
- 3) 永井涼子. 看護師による「申し送り」会話の談話交替管理——スタイルシフトを中心に. 日本語教育. 2007; 135: 80-111.

医学書院 NEO セミナー

看護の本質を語る、ともに考える

日時 2025年5月10日(土) 13:00~16:00

対象 看護師(看護教員、管理者含む)

講師



川嶋みどり先生
日本赤十字看護大学
名誉教授
健和会臨床看護学研究所
所長
日本で・あーて、TE・ARTE,
推進協会 代表理事



波平恵美子先生
お茶の水女子大学
名誉教授

配信(Web)開催

受講料: 11,000円/名
*NEO有償契約校・契約者は無料

現地(対面)開催

会場: 医学書院本社2階会議室(東京都文京区本郷1-28-23)
定員: 50名(先着順)
受講料: 16,500円/名
*NEO有償契約校・契約者は5,500円



看護教員のための
オンライン
プラットフォーム

NEO Nursing Education Online

個人版 法人版

NEOは
まなぶ | つながる | ひろがる
をコンセプトにした
看護教育・研究について学べる
オンラインプラットフォームです。